

2026年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
330341087	保育内容（健康）の指導法 I The method of	加藤 彰浩			1	選択	2前期

科目の概要

本科目は四大精神の実践を通し（DP1）、社会的に自立して生きていく上で必要な保育士・幼稚園教諭に関する専門的な知識・技能を身に付け（DP3）、建学の精神をはじめ、社会人基礎力やpisa型学力を習得する（DP5）

。幼児期の子どもの身体発達が著しく、運動の発達や動作の習得も著しいため、この時期の運動経験が続く児童期および青年期における心身の成長や運動の発達に大きな影響をもたらす。そのため、幼児期に行われる運動は適時期に適切な方法によって行うことにより子どもの成長を促すことから、発育・発達における保育者および教育者の果たす役割は大きい。この授業では、発育発達段階にある幼児期における心身の成長および運動能力の発達について理論的に学び、さらに保育者および教育者として必要な運動遊びの援助方法や留意点、運動能力の測定方法を演習を通して実際に体験しながら学び、運動遊びにおける支援および教育的技術について学ぶ。

学修内容	到達目標
① 幼児期の心や身体発達について学ぶ。 ② 幼児期の発育発達段階に応じた「運動遊び」の方法を学ぶ。 ③ 幼児期の「運動遊び」における効果的な支援や指導方法について学ぶ。	① 幼児期の心や身体発達を理解する事が出来る。 ② 幼児期の発育発達段階に応じた「運動遊び」の教材を理解することが出来る。 ③ 幼児期の「運動遊び」における効果的な支援や指導が出来る。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素 **学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例**

前に踏み出す力	主体性	毎回のテーマに関する方法や技術について、事前に資料をもとに調べてくる。睡眠、食事等生活リズムを整え、自ら積極的に授業に参加する。
	働きかけ力	
	実行力	毎回のテーマに関する方法や技術について、事前に資料以外をもとに調べてくる。未経験なことや不得意なことに対し、積極的に取り組み、試行錯誤の過程を経ながら取り組むことが出来る。
考え抜く力	課題発見力	様々なことへ取り組む過程において、各遊びのポイントや留意点、支援方法について積極的に考え、気づく事が出来る。
	計画力	
	創造力	各遊びの要素やポイントから、実際の支援・教育場面を想定して、考えることが出来る。
チームで働く力	発信力	授業における疑問や新たな視点に対して積極的に発言し、疑問を解決する。
	傾聴力	他者の考えや意見を聞き、様々な考えや意見があることを理解する。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	毎回の提出物を期日までに提出する。時間やルールを守り、他の学習者に迷惑をかけないように授業に参加する事が出来る。
	ストレスコントロール力	

テキスト及び参考文献

テキスト：演習 保育内容健康—基礎的事項の理解と指導方法—（建帛社）
 その他：日本スポーツ協会「アクティブチャイルドプログラム」<https://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/acp/>
 資料を適宜配布する。映像等はGoogle Classroomを通じて行う。
 参考文献：「幼児期運動指針実践ガイド」日本発育発達学会編（杏林書院）

他科目との関連、資格との関連

他科目との関連：「保育内容(健康)の指導法Ⅰ」は学科専門科目「保育の内容・方法に関する科目」として設定されており、保育の5領域の内容であり、「保育内容(健康)」で学んだ内容をもとに、保育内容(健康)の指導方法を実技や演習を通して学ぶ科目です。また、「保育内容(健康)の指導法Ⅱ」では扱わない内容を学ぶ。
 関連資格：保育士、幼稚園教諭

学修上の助言	受講生とのルール
常に子ども達を指導する立場になって考えながら授業を受けることにより、保育者および教育者になった時に役に立つ子どものつまづきや効果的な支援方法を学ぶ事が出来る。	運動を行うのに危険ではない服装、爪、頭髪、アクセサリで受講し、授業に遅刻しない等社会人として相応しい振る舞いをする事。 知識の定着にはNotebookLMを活用すると良い。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①			
				②			
				③			
	平常評価	小テスト		0	①		
					②		
					③		
		レポート		60	①	✓	
					②	✓	
③					✓		
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）			30	①			
				②	✓		
	③			✓			
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			
			②	✓			
			③	✓			
総合評価割合			100				

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>・幼児の発育発達段階を考慮した「運動遊び」の指導ができること。</p> <p>・「運動遊び」の各内容の留意点を考慮した支援が出来ること。</p> <p>・他者の運動を観察し、良い点、改善点がわかり、他者に伝え、一緒に考えることが出来ること。</p> <p>Sは上記3つ全てできる</p> <p>Aは上記のうち2つできる</p>	<p>・幼児の発育発達段階を考慮した「運動遊び」の指導ポイントを説明できる。</p> <p>・「運動遊び」の各内容の留意点を説明することができる。</p> <p>・他者の運動を観察し、良い点、改善点をわかることができる。</p> <p>Bは上記3つ全てできる</p> <p>Cは上記のうち2つできる</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	○オリエンテーション ○幼児期の遊びと運動の意義を考える	講義(教室)	受講に相応しい態度で授業に臨み、幼児体育の意義と役割を理解している。	(予習) 幼児期の遊びと運動の意義について、テキストp. 74-90を読んでくる。 (復習) 幼児における運動の役割をまとめる。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 規律性
2	○「幼児の運動指導方法」について学ぶ。	講義(教室)	幼児の運動指導方法および留意点について理解している。	(予習) 幼児体育の内容について、テキストp. 99-127を読んでくる。 (復習) 幼児体育の指導内容および留意点をまとめる。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
3	○「幼児体育の指導内容および指導上留意事項」、日本体育協会「アクティブチャイルドプログラム」について学ぶ。	講義(教室) 動画視聴「日本体育協会「アクティブチャイルドプログラム」「指導者の方へ」」 https://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/acp/shidouya.html	幼児体育の指導内容および留意点について理解している。	(予習) 幼児体育の内容について、日本体育協会「アクティブチャイルドプログラム」を視聴する。 (復習) 幼児体育の指導内容および留意点をまとめる。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
4	○「幼児の運動能力テスト」を体験しながら方法について学ぶ。	演習(体育館)	幼児の運動能力の測定方法を理解している。	(予習) 幼児の運動能力テストの内容について、資料を読んでくる。 (復習) 幼児の運動能力の測定方法を復習する。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
5	○器械・器具を使った運動遊び 「マットを使った運動遊び」の知識・技術を身につける。	演習(幼児体育室)	マットを使った運動遊びの指導内容および要点を理解している。	(予習) マットを使った運動遊びの内容を調べる。 (復習) マットを使った運動遊びの要点をまとめる。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
6	○器械・器具を使った運動遊び 「跳び箱を使った運動遊び」の知識・技術を身につける。	演習(幼児体育室)	跳び箱を使った運動遊びの指導内容および要点を理解している。	(予習) 跳び箱を使った運動遊びの内容を調べる。 (復習) 跳び箱を使った運動遊びの要点をまとめる。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
7	○器械・器具を使った運動遊び 「鉄棒を使った運動遊び」の知識・技術を身につける。	演習(幼児体育室)	鉄棒を使った運動遊びの指導内容および要点を理解している。	(予習) 鉄棒を使った運動遊びの内容を調べる。 (復習) 鉄棒を使った運動遊びの要点をまとめる。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
8	○からだを使った運動遊び 「鬼ごっこ」の知識・技術を身につける。	演習(体育館) フィードバック	走る運動(鬼ごっこ)の指導内容および要点を理解している。	(予習) 鬼ごっこの内容を調べる。 (復習) 鬼ごっこの要点をまとめる。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	○からだを使った運動遊び 「走る」「リレー」の知識・技術を身につける。	演習(体育館) フィードバック	走る、跳ぶ運動の指導内容および要点を理解している。	(予習) 走るポイントやリレーの方法を調べる。 (復習) 走る遊び、リレーの要点をまとめる。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
10	○からだを使った運動遊び 「跳ぶ」の知識・技術を身につける。	演習(体育館) フィードバック	跳ぶ運動の指導内容および要点を理解している。	(予習) 跳ぶ遊びの内容を調べる。 (復習) 跳ぶ遊びの要点をまとめる。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
11	○用具を使った運動遊び 「フラフープ」の知識・技術を身につける。 ○平均台を使った遊び 「平均台歩き」や「陣取り」の知識・技術を身につける。	演習(体育館) フィードバック	フラフープ・平均台を用いた運動の指導内容および要点を理解している。	(予習) フラフープ・平均台を使った遊びの内容を調べる。 (復習) フラフープ・平均台を使った遊びの要点をまとめる。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
12	○体づくり運動 「体の動きを高める運動」の知識・技術を身につける。 「コーディネーション運動」の知識・技術を身につける。	演習(体育館) フィードバック	体づくり運動、コーディネーション運動の指導内容および要点を理解している。	(予習) 体づくり運動、コーディネーション運動の内容を調べる。 (復習) 体づくり運動、コーディネーション運動の要点をまとめる。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
13	○ボールを使った遊び 「ボール投げ」や「ドッチボール」の知識・技術を身につける。	演習(体育館) フィードバック	ボールを使った遊びの指導内容および要点を理解している。	(予習) ボールを使った遊びの内容を調べる。 (復習) ボールを使った運動の要点をまとめる。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
14	○なわとびを使った遊び 「なわ遊び」や「一人縄跳び」の知識・技術を身につける	演習(体育館) フィードバック	なわ遊びの指導内容および要点を理解している。	(予習) なわ遊びの内容を調べる。 (復習) なわ遊びの要点をまとめる。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
15	○なわとびを使った遊び 「長縄跳び」の知識・技術を身につける。	演習(体育館) フィードバック	なわとびの指導内容および要点を理解している。	(予習) 長縄跳びの内容を調べる。 (復習) 長縄跳びの要点をまとめる。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

2026年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
330341088	保育内容（健康）の指導法Ⅱ	高田 由基			1	選択	2後期後期

科目の概要

この科目はDP2.3に記載されている子どもの生活学科の教育目標である人々の日常生活を子育ての面から支援することができる人材を育成する科目として設定されている。教諭・保育者は、何のために(目的・目標)、何を(内容)、どのように(方法)教えるべきか、子どもたちに直接の責任を負っている。子どもたちが生涯にわたって健康で、安全で幸福な生活を送るために私たちは何をすべきか、子どもの健康や発達について理解し、健全な発育を促す具体的な支援方法について学習する。小児保健や学校保健を踏まえ健康教育を展開するうえでの基本的な知識を修得するとともに、必要な実践力の基礎を身につける。

学修内容	到達目標
① 子どもの健康をめぐる現状について知り、課題点を学修する。 ② 子どもの心身の発達について学修する。 ③ 子どもの健康支援の方法、内容について学修する。 ④ 健康教育の方法、内容について学修する。 ⑤ 子どもの健康な心と、体を育てるために必要な教諭・保育者の役割、組織活動の内容と連携について学修する。	① 子どもの健康をめぐる現状と課題を理解し説明することができる。 ② 子どもの心身の発達について理解し説明することができる。 ③ 子どもの健康支援の方法や内容について理解し指導案を立案することができる。 ④ 健康教育の方法、内容について理解し指導案をもとに教育を行うことができる。 ⑤ 子どもの健康な心と、体を育てるために必要な教諭・保育者の役割、組織活動の内容と連携について理解し諸問題に対する解決策や対処法を提案することができる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
前に踏み出す力	主体性	自分の役割を明確にして課題に取り組むことができる
	働きかけ力	
	実行力	それぞれの育児教育テーマについて知識・技術を確認し、グループごとに発表することができる
考え抜く力	課題発見力	グループの課題を明らかにしグループワークを進めることができる
	計画力	
	創造力	発表に向けて、自分達のテーマに合わせた効果的な媒体作成をおこなうことができる
チームで働く力	発信力	教育計画に基づき分かりやすく発表するとともに、対象を理解して伝えることができる
	傾聴力	グループワークや発表時、内容確認や質問を行い正確に理解するとともに話しやすい状況をつくることことができる
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	グループワークにおいてグループのルールや約束を守りメンバーのサポートができる
	ストレスコントロール力	

テキスト及び参考文献

テキスト：子どもの健康と安全 演習ノート／小林美由紀 編著（診断と治療社）
 参考資料：幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領／その他毎回、授業課題と資料を配布する。
 参考文献：子どもの保健

他科目との関連、資格との関連

多科目との関連：「子どもの健康Ⅱ」は学科専門科目「保育の内容・方法に関する科目」として設定されており、「子どもの健康Ⅰ」で獲得した知識・技術を活用する。その後に履修する「子育て支援」「こどもと環境」の基礎となる科目である。
 資格との関連：保育士・幼稚園教諭

学修上の助言	受講生とのルール
子どもの保健と保育内容(健康)、こどもの健康Ⅰの十分な理解が必要である。復習をしながら、こどもの健康Ⅱに取り組むこと。講義や課題において、google forms、google classroom等を活用することがある。	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の私語は慎み積極的に授業に参加する 配布プリントや資料は講義ノートに合わせてまとめ、内容を整理しておく 積極的なグループワーク、発表準備を行う

【評価方法】

評価対象	評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	0	①			
			②			
			③			
			④			
			⑤			
	小テスト	0	①			
			②			
			③			
			④			
			⑤			
	レポート	30	①	✓		○問題を適切にとらえて、それに対し自らの意見を主張できているか。 ○重要なポイントを押さえているか。 ・子どもの健康をめぐる現状と課題 ・子どもの心身の発達について ・子どもの健康支援の方法・内容 ・健康教育の方法・内容 ・教員や保育者の役割 ・組織活動の内容と連携など ○毎回のレポート課題に対する自分なりの意見を述べられているか。 ○前回のレポート内容（一部抜粋）の中から印象に残った意見について自分なりの意見が述べられているか。
			②	✓		知識の活用（50％）子どもの心身の発達について理解し説明する 知識の獲得（30％）子どもの健康支援の方法や内容について理解し指導案を立案する 課題解決（20％） 教諭・保育者の役割、組織活動の内容と連携について理解し諸問題に対する解決策や対処法を提案する
			③	✓		
			④	✓		
			⑤	✓		
	成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	60	①	✓		
			②	✓		知識の活用（50％）子どもの心身の発達について理解し説明する 知識の獲得（30％）健康教育の方法、内容について理解し指導案をもとに教育を行う 課題解決（20％） 教諭・保育者の役割、組織活動の内容と連携について理解し諸問題に対する解決策や対処法を提案する
			③	✓		
			④	✓		
			⑤	✓		
社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	(主体性)自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。 (発信力)課題に向けて積極的に取り組み、粘り強く取り組み続けることができる。 (課題発見力)講義での提示を受け、今、何が課題であるのか、またその解決に向けて現段階でなすべきことを的確に把握することができる。 (創造力)子どもたちと接するにあたり、課題に向けてどのように取り組んでいくか、創意工夫した解決策を考察することができる。 (発信力)事例や客観的データ等を用いて、具体的にわかりやすく課題解決の方向性を発信することができる。 (傾聴力)内容の確認や質問等を行いながら、講義での提示を正確に理解することができる。 (規律性)受講態度（学習意欲欠如、私語、課題やその他の提出物の未提出、など）が見られる場合は減点する。		
		②	✓			
		③	✓			
		④	✓			
		⑤	✓			
総合評価割合		100				

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>達成目標①から⑥について実践できるとともに健康教育準備プロセスから発表までの一連の流れにおいて、社会人基礎力を発揮し自己評価・他者評価において全て満足できる評価が得られる。つまり健康支援活動がすぐ実践できる能力に達していることが基準となる（総合評価80点以上90点未満）。A以上の能力を有しているもの（総合評価90点以上）をSとする。</p>	<p>達成目標①から⑥について実践できるとともに健康教育準備プロセスから発表までの一連の流れにおいて、社会人基礎力を発揮し自己評価・他者評価においてある程度満足できる評価が得られる。つまり健康支援活動について一定の指導・研修後実践できる能力に達していることが基準となる。</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	オリエンテーション 事故防止および安全対策	講義	授業の目的とグループワークについて理解することができる。自分の役割を明確にして課題に取り組み、メンバーのサポートができる。 子どもの事故の特徴と種類を知り、安全対策について考えることができる。	予習：教科書、ワークシートにて確認(第1章) 復習：ワークシートにて不十分な項目について再度確認する	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
2	危機管理と災害への備え	・講義 ・グループワーク	子どもの事故の特徴と種類を知り、事故防止のための方法を考えることができる。 実習時におけるケアの課題を見つけることができる。	予習：教科書の確認 復習：ワークシートにて不十分な項目について再度確認する	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
3	保育環境 測定と評価	・講義 ・グループワーク ・レポート提出(google classroom)	・子どもの健康を守るための保育環境について考えることができる ・身体計測と評価の仕方を理解することができる	予習：教科書の確認 復習：不十分な項目について確認する	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
4	体調不良の対応、応急処置、心肺蘇生	・講義 ・グループワーク ・レポート提出(google classroom)	・子どもの体調不良時の様子と対応を理解することができる。 ・実習時におけるケアの課題を見つけることができる。	予習：教科書の確認 復習：不十分な項目について確認する	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
5	感染症の対応、出席停止	・講義 ・グループワーク ・レポート提出(google classroom)	・子どもがかかりやすい感染症の症状と対応を理解することができる。 ・出席停止とその期間や基準を理解することができる。	予習：教科書を確認 復習：不十分な項目について再度確認する	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
6	保健的対応の基本、3歳未満の対応①	・講義 ・グループワーク ・レポート提出(google classroom)	・保育活動、日常生活などにおける保健的な視点と対応を理解することができる。 ・3歳児未満の発育発達の標準を理解することができる。	予習：教科書を確認 復習：不十分な項目について再度確認する	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
7	3歳未満の対応②	・講義 ・グループワーク ・レポート提出(google classroom)	・3歳児未満の発育発達の標準を理解することができる。 ・実習時におけるケアの課題を見つけることができる。	予習：教科書を確認 復習：不十分な項目について再度確認する	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
8	個別的な配慮を要する子どもへの対応	・講義 ・グループワーク ・レポート提出(google classroom)	・個別配慮が必要な子どもの保育・援助で留意すべきことを理解することができる。 ・アレルギー、さまざまな慢性疾患への対応を理解することができる。	予習：教科書を確認 復習：不十分な項目について再度確認する	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	障がいのある子どもへの対応	・講義 ・グループワーク ・レポート提出(google classroom)	・個別配慮が必要な子どもの保育・援助で留意すべきことを理解する ・アレルギー、さまざまな慢性疾患への対応を理解する	予習：教科書を確認 復習：不十分な項目について再度確認する	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
10	指導案の書き方	・講義 ・個人ワーク ・グループワーク	・実習日誌、指導案の書き方の基本を理解することができる。 ・「予想される子どもの姿」「援助と留意点」を考え、表記することができる	予習：教科書を確認 復習：不十分な項目について再度確認する	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
11	指導案の作成① 指導案を書き始める。	・講義 ・個人ワーク	・学んだ指導案の書き方を生かして、書き始める ・4つの場面から選択して、具体的な設定を考える	予習：教科書や資料を確認 復習：不十分な項目について再度確認する	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
12	指導案の作成② 作成した指導案を見合う	・講義 ・グループワーク	・作成した指導案を見合い、自他の指導案の良さや課題を理解することができる。 ・指導案の適切な表記表現について理解することができる。	予習：教科書や資料を確認 復習：不十分な項目について再度確認する	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
13	指導案の作成③ 完成した指導案を紹介する。	・講義 ・グループワーク ・完成した指導案はGoogleクラスルームに提出	・完成した指導案を紹介し合い、ねらいやポイント、工夫した点を伝えることができる。 ・自分で課題と感じた点を理解するとともに、その解決に向けて取り組もうとしている。	予習：教科書や資料を確認。作成した指導案を入念に確認。 復習：不十分な項目について再度確認し、必要に応じ修正する。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
14	模擬保育① 模擬保育の実践	・グループワーク ・ロールプレイ	・作成した指導案に基づいて模擬保育を行うことができる。 ・模擬保育を実施したり、観察したりして、自他の課題に気づくことができる。	予習：作成した指導案をもとに、保育のねらいや留意点を確認する。 復習：自他の課題に気づき、課題解決について考える。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
15	模擬保育② 模擬保育の実践とまとめ	・グループワーク ・ロールプレイ	予習：作成した指導案をもとに、保育のねらいや留意点を確認する。 復習：自他の課題に気づき、課題解決について考える。	予習：作成した指導案をもとに、保育のねらいや留意点を確認する。 復習：自他の課題に気づき、課題解決について考える。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力